

# みんなで築こう 人権の世紀

考えよう 相手の気持ち 育てよう 思いやりの心



亀山東小学校1年 森本 結友 さん



井田川小学校3年 谷口 拳都 さん



関小学校4年 川北 紗良 さん



亀山東小学校5年 佐野 心愛 さん



亀山西小学校2年 加藤 駿來 さん



亀山中学校2年 中澤 郁巳 さん



関中学校3年 井川 恵理 さん

# ヒューマンフェスタ in 亀山

平成26年12月6日(土)、関文化交流センターにおいて、「第10回ヒューマンフェスタ in 亀山」を開催し、約400名の方にご来場いただきました。

午前9時30分に開会し、コーディネーターに亀山市人権施策審議会 会長の藤原正範さん(鈴鹿医療科学大学 教授)、パネリストに亀山市人権施策審議会 副会長の不破為和さん、同審議会委員の明石澄子さん、ヒューマンフェスタ in 亀山実行委員会 実行委員の西秀人さん(亀山市教育委員会 教育研究室長)、広森洋子さん(亀山市 市民文化部 文化振興局長)の計5名に登壇いただき、パネルディスカッションを行いました。登壇者は、それぞれご自身の体験談などを熱く語っていただきました。



続いて、参加者全員が、①女性の人権、②障がい者の人権、③高齢者の人権、④子どもの人権Ⅰ、⑤子どもの人権Ⅱ、⑥偏見・差別の6分科会に分かれ、参加者同士で意見を交わしました。短い時間でしたが、いろいろな人の考えを聞くことができ、良い機会であったと思います。



お昼には、亀山みそ焼きうどんや手作りパン等の販売、関中学校区人権ネットワーク協議会による「人権缶バッチづくり」体験、徳風高校によるネイルアートやセラピー犬とのふれあい体験、市内小中学生による人権習字・ポスター展示、各種活動団体による活動報告などのブース活動・展示が行われ、各ブースとも多くの人で賑わいました。

午後1時から、主催者あいさつ等のあと、市内3中学校の生徒3人による人権作文発表、亀山高校生による人権スピーチがありました。中学生の作文は、LINEなどでの言葉のやり取りは、誤解を招いたり相手を傷つけてしまったりするので注意したいといったことや、障がいのある友達がからかわれていた時に、何もできなかった自分を今も悔やんでいるということや、障がい者が不安な思いをせずに生活できるような社会になることを切に願っているといった内容の発表でした。高校生のスピーチは、お母さんは、四肢に障がいのある自分を特別支援学校ではなくて地元の学校に通わせてくれたが、その真意は、「確かに特別支援学校は段差も無くスロープだから快適に過ごせると思う。でも、一步社会に出てみれば、そんな場所はまだまだ少ないから、大人になった時に苦労しないように」ということだったという心打たれるものでした。

その後の大阪成蹊大学 教授 園田雅春さんによる講演「ココロと心つながる地域づくり ～おとなも子どもも輝くために～」は、子どもたちにとって、「自分がだいじにされている」という実感、つまり『自尊感情』が大切であるといった内容でした。



園田 雅春 さん

ヒューマンフェスタ in 亀山は、様々な団体が参加し、人権に関する講師による講演を実施し、人権感覚を磨く良い機会となっています。皆さんの参加をお待ちしております。



# 子どもの人権

2014年は、「子どもの権利条約」が国連で採択されてから25年、日本が批准してから20年という節目の年でした。この機会に改めて子どもの人権について考えてみましょう。

子どもも、大人と同じ一人の人間であり、人としての自由と権利があります。

「しつけだから」といった理由で、親などが子どもに暴力をふるう児童虐待が、日本でも深刻な社会問題となっています。虐待は、子どもの心身に重大な影響を及ぼす人権侵害であるばかりでなく、次世代への「虐待の連鎖」を生む原因とも言われています。

また、児童買春やインターネット上での児童ポルノの氾濫など、子どもが性的に搾取される問題も深刻になっています。

さらに世界には、紛争や貧困、有害な労働により命を脅かされる子どもたちもたくさんいます。

子どもは、大人よりも人権が侵害されやすい存在であることを認識し、子どもの人権について

は特に守ろうとする意識が必要です。

また、「いじめ」は、その心身の健全な成長及び人格の形成に重大な影響を与えるだけでなく、その生命又は身体に重大な危険を生じさせる恐れがあり、決して許されるものではありません。

最近では、スマートフォンなどを使って、インターネット上で誹謗・中傷がなされるなど、周囲や大人に分からないように行われるケースも多く見られます。

「いじめ」は、いじめの子だけの問題ではありません。いじめを見て見ぬふりをする人にも、いじめがなくなる原因の一端があると言えるのではないのでしょうか。

子どもたちが健やかに安心して成長していくためには、地域や家庭、学校など、社会全体での取り組みがとても大切であり、お互いが連携・協力しながら行動していく必要があります。

子どもを、一人ひとり個性を持ったかけがえのない存在として捉え、思いやりやいたわりを育む環境、子どもが社会に参加できる環境をつくっていかねばなりません。

子どもは「社会の宝」です。子育ての当事者だけがかわるのではなく、地域社会全体で育み・見守っていく社会にしていきたいですね。



2014年度「人権」に関する絵画・ポスター募集への応募ありがとうございました。



今年度も市内の全小中学校の児童・生徒の皆さんからたくさんの応募をいただきました。

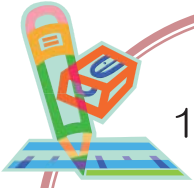
作品は、12月に実施した「第10回ヒューマンフェスタ in 亀山」で展示しました。

子どもたちの人権メッセージの詰まった作品を多くの方に見ていただくことができ、大変有意義なものとなりました。

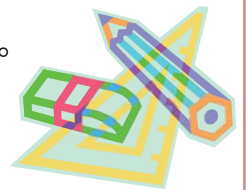
来年度もたくさんの応募をお待ちしています。

# ちょっと考えてみよう！

## 【わたしのものさし】（○ △ ×）



- 1 駅に車イスの設備がないのはしかたがないと思う。
- 2 点字ブロック上の自転車は、行政が撤去すべきだと思う。
- 3 採用面接時に出身地を聞くことはルール違反だと思う。
- 4 親が子どもの結婚相手の身元を調べるのは自然だと思う。
- 5 家族の同意があってこそ幸せな結婚ができると思う。
- 6 日本の習慣に合わせるよう外国人も努力すべきだと思う。
- 7 外国人に部屋を貸したくない大家さんの気持ちも分かる。
- 8 外国人向けの標示や案内をもっと設置すべきだと思う。
- 9 老後の生活は自己責任だと思う。
- 10 女子が男子といっしょに野球をするのは違和感がある。
- 11 お茶の用意を女性がしがちなのはおかしいと思う。
- 12 家事の分担は家庭によって様々でいいと思う。
- 13 場合によっては我が子に手をあげることも必要だと思う。
- 14 電車内には妊婦や高齢者専用の座席を用意すべきだと思う。
- 15 最近の若者のマナーはなってないと思う。



これらのことは、話し合いのための資料です。

なにが ○・△・× なのか答えはありません。いろいろな考えを出し合って人権感覚を磨いていただけたらと思います。

あらゆる差別のない明るい社会を築いていくためには、私たち一人ひとりが毎日の暮らしの中で人権感覚を磨いていく必要があります。